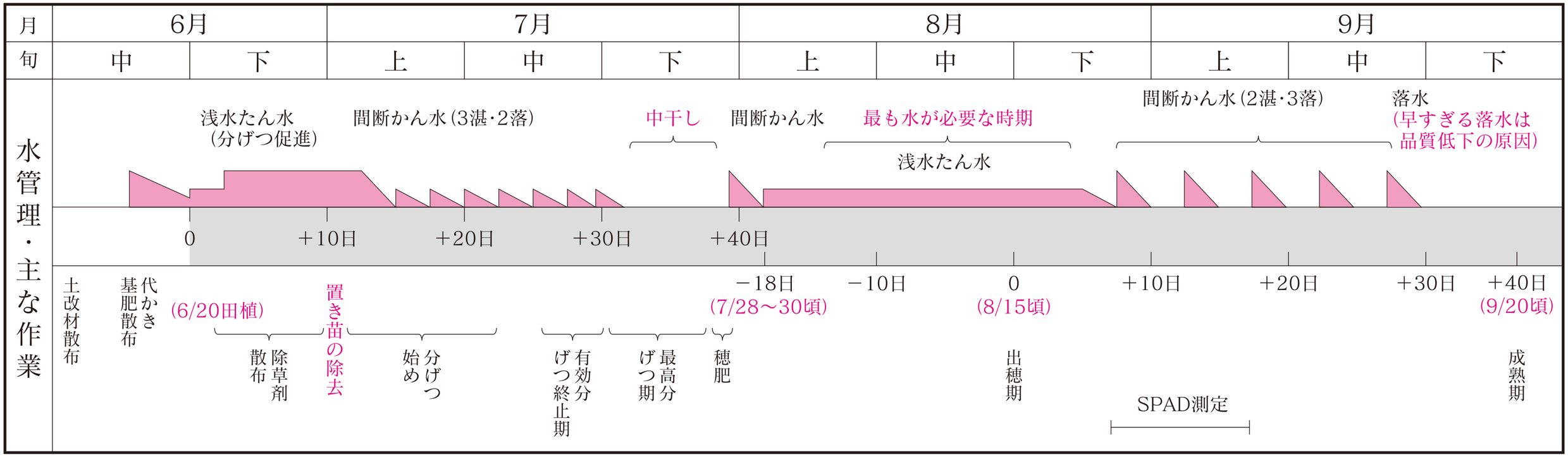
令和8年産 特別栽培米 夢つくし 栽培こよみ

農薬適正使用スローガン

1.散布前に必ず農薬ラベル確認!
2.散布時は、近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底!
3.水田では、除草剤散布後の止水期間(7日間)を遵守!
4.散布後は、必ず散布器具(タンク・ホース等)を洗浄!
5.防除履歴は、正確に記帳!

筑前あさくら農業協同組合
三輪地区特別栽培米部会

○主な作業と水管理〈夢つくしの平坦地水管理例(6月20日田植)〉



●田植後10日〜2週間は活着促進とジャンボタニシ予防のため浅水たん水を行う。 ●田植30日後(1株茎数20本程度)から中干しを開始する。(中干し期間は7日間程度で強すぎないようにし、その後は徐々に間断かん水を行う。)
●幼穂形成期〜出穂〜開花期は水が最も必要な時期なので浅水たん水を行う。 ●台風接近時は深水にして風によるしおれを防ぐ。 ●充実を良くするため落水は収穫前7〜10日に行う。

○育苗基準(老化苗・病害防止のため23日苗とする)

1.種　子　全量種子更新

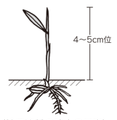
2.用　土　土は10a当たり、あさくら培土4袋。

3.種子消毒　専用機械で温湯消毒を実施する(60℃で10分浸漬)
※必ず乾籾を使用し、温湯で時間を厳守すること。

4.浸　種　浸種は7日程度行い、水替えは1日1回行う。
芽出しは1㎜程度とする。

5.播　種　播種量は1箱当り催芽籾で130gを基準とする。

6.平床育苗　**生育促進、もみ枯細菌病等の予防として、苗箱は日当たりが良く、風通しの良い場所に並べ、被覆資材で被覆する。**
徒長防止のため苗の長さが4〜5cm位になった被覆資材を除去する。(7日程度)



(被覆資材の除去の目安)

※箱施薬剤は、確実に1箱あたり50g施用しないと防除効果が劣る。
※栽植密度は、60株/坪。(目安　19cm×30cm)
※ジャンボタニシ発生田では浅水管理を行い、スクミンベイト3を散布する。

○土づくり

資材の分類	資材名	施用量(10a当たり)	備　考		
有機質	万能堆肥	2t	腐植の増加 土壌通気性、保水性の向上 耕起前に硫安10kg/10aを施用(麦わらの分解促進) 間断かん水の励行(根痛み防止)		
	麦わら	全量			
ケイ酸質	けい酸加里	40〜60kg	カリの供給 微量要素の供給 鉄分の供給 石灰の供給	ケイ酸の供給	登熟向上 倒伏防止 病害虫予防
	ミネラルG	200kg			
	ケイ鉄				

○施肥基準

(kg/10a)

	肥　料　名	基肥	追肥	成分量 N	P	K
一発	有機エムコート355(100日)	55		7.15	2.75	2.75
分施	スーパーユーキくん2号	45		5.4	2.25	2.25
	スーパーユーキくん3号		20	2	0.6	1.6

○除草剤使用基準

薬　剤　名		使用料	処理時期(田植え後)
カチドキZ	1キロ粒剤	1kg	0〜10日
	楽粒	250g	3〜10日
ゼータプラス	1キロ粒剤	1kg	0〜12日
	フロアブル	500mℓ	3〜12日
	200FG	200g	

※広葉雑草が多い圃場では、処理時期内の早い時期に散布する。
※除草剤散布後は、1週間程度落水口を閉め、湛水状態を保つ。

田植同時(当日)に除草剤を使用する際は右記条件では薬害が発生しやすい

条件	要因
根の露出	浅植え・浮き苗
	麦わらによる植え付け不良
	土壌が固く植え穴が戻らない
漏水田	代かきが不十分
	モグラの穴による漏水
	ほ場の水持ちが悪い

○病害虫防除基準

○箱施薬(は種時〜田植当日)1回
(いずれか1剤使用 50g/箱)
- **スクラム箱粒剤**(紋枯病、いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、ウンカ、コブノメイガ)
- ただし、白葉枯病・もみ枯細菌病に対しては、移植3日前〜田植当日スクラム箱粒剤を使用した場合は補正防除が出来なくなります。
- **ブーンゼクテラ箱粒剤**(いもち病、白葉枯病、もみ枯細菌病、ウンカ、コブノメイガ)

○本田防除(8月中旬)1回
液剤…
- **ロムダンゾル(1000倍)**(コブノメイガ、イネツトムシ)
- **ノンブラスバリダフロアブル(1000倍)**(いもち病、紋枯病)
- **スタークル液剤10(1000倍)**(ウンカ、カメムシ)

(出穂、開花期は使用を避ける)

補正防除については、病害虫の発生状況に応じて行う。

注)農薬、肥料は令和8年1月9日現在の登録状況に基づき、記載しています。